

日本プロ野球界におけるフランチャイズ移転の可能性に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5009A331-5

森本 譲二

研究指導教員：平田 竹男 教授

本研究は、NPB 活性化に向けた改善策の一つとして、観客動員数およびファン人口から NPB における不振球団を抽出するとともに、最も効果が高いと思われるフランチャイズ移転候補地域を考察した研究である。

第一章では、研究に至った背景と目的を述べた。現在、日本プロ野球界における多くの球団が長引く経済不況の影響による経営危機に陥っている。筆者は今後プロ野球界が更なる発展を遂げる為に、各球団のファン人口及び観客動員数の増加施策が不可欠であると考え。2004 年のフランチャイズ移転を機に大きく観客動員数を伸ばしている北海道日本ハムファイターズ（以下ファイターズ）の事例に着目し、フランチャイズ移転がプロ野球球団のファン人口、および観客動員数増加に影響を及ぼしているのではないかと考える。そこで、本研究の目的は、NPB 各球団における観客動員数およびファン人口の増減率から不振球団を抽出し、より効果的なフランチャイズ移転候補地域を選定することにより、NPB の活性化に繋げる事とした。

第二章は研究手法について述べる。本研究では、NPB における効果的なフランチャイズ移転候補地域を選定する為、次の手順

で行なう。1. NPB における観客動員数、およびファン人口の増減率を分析し、不振球団を抽出する。2. 既存球団のフランチャイズ地域以外の都道府県の中から、人口に対するプロ野球ファン人口の割合が高い地域を抽出し、移転候補地域を選出する。3. MLB と NPB におけるフランチャイズ移転事例の分析によって不振球団が移転する際に参考となる要素を導き出す。4. MLB および NPB 球団における移転前後の観客動員数推移と試合の勝率について分析を行い、本稿における「移転成功球団」を定義する。5. 移転成功球団における共通項を調査し、フランチャイズ移転の際に重視すべき事項を抽出する。6. 移転後の観客動員数の推移を分析し、各球団の増減率に関する共通事項を抽出する。7. MLB 球団が他の 4 大スポーツチームがフランチャイズ展開している都市に移転しているのかを調査し、さらに他競技とのダブルフランチャイズの有無を分析する。8. MLB 球団が移転する際に、州及び市から優遇措置を受けていたのかを調査すると共に、移転に至る背景を調査する。

第三章は研究結果である。都道府県人口に対するファン人口の割合、および観客動員数に関する 1999 年と 2009 年の数値比較と分析を行なった結果、「オリックス・パフ

アローズ(以下バファローズ)」と「ヤクルト・スワローズ(以下スワローズ)」を「不振球団」と定義した。次に、移転候補地域の抽出を行なった結果、「北信越地方(新潟県、富山県、石川県、長野県)」、「四国地方(徳島県、香川県、愛媛県、高知県)」および「南九州(熊本県、宮崎県、鹿児島県)」が選ばれた。

第四章も結果を述べる。フランチャイズ移転後の観客動員数、および試合の勝率についての成長率を分析する事で、MLB では4球団、NPB では2球団を移転成功球団と定義する。

また、移転成功球団について、フランチャイズ移転時のオーナーの関わり合い方を分析した結果、MLB ではいずれもオーナーが積極的にフランチャイズ移転を行なっている一方で、NPB においては、実質的な経営破綻により、フランチャイズ移転が行なわれている事が分かった。

第五章では、本研究結果から得られた知見を整理し、プロ野球界が発展していく為のNPB における効果的なフランチャイズ移転の有り方について考察した。

本稿で不振球団と定義した、バファローズとスワローズが、仮に移転候補地域にフランチャイズ移転を行なったと想定した場合の推計ファン人口と推計観客動員数を導き出した結果、いずれの移転候補においても唯一の存在となることで、バファローズ、スワローズ共に現在のファン人口、および観客動員数を上回る事が可能であると考察された。また、フランチャイズ移転時には、オーナー(企業)が確固たる球団経営のビ

ジョンを持ち、収益を拡大する為に積極的な運営を行なう事が、球団の将来的成功をもたらすと推察された。更には、MLB におけるフランチャイズ移転の事例を分析した結果、移転を行った全ての球団に共通して、移転後10年から13年後に最も観客動員数が落ち込むことが判明した。この結果より、NPB においてもフランチャイズ移転を行なう際は、10年後の対策を見越した対策、プロモーション活動を行なう事が重要であると考察された。

今後、幅広い地域にプロ野球球団がフランチャイズを置き、日本の全体をカバーすることにより、潜在的なファン人口の拡大へと繋げる事が、今後のプロ野球界の発展にとって重要であると筆者は考えている。